

婦人共立育児會

一 員

醫學博士弘田長先生の發起で飯田町にある同會は明治二十四年一月設置されました。總裁に有栖川宮妃殿下を戴き會頭は鍋島侯夫人で今では基金一萬千九百餘圓を維持して社會救濟事業の益々必要な今日其の一機關となつて居るのは世の中の爲に幸福な事と思ひます。試みに同會の主意書を掲げます。

凡世の中にはれに悲しき事は父母を亡ひ親族朋友の頼むべきなく遂に饑餓に迫り疾病に悩むもの身の上なり。それが中にとりわけ悲しきはかる苦境に陥れる幼兒にて聽くだに忍びがたき者にぞある。されば海の東西何れはあれど文物ある國に生れたる人のかかる薄命者に對する感情は大なる別なかるべし。宜なるかな我朝にては昔光明皇后の興し給ひし悲田施藥の二院を始として徳川氏の世には養生所と云ふものあり。又歐洲にては到る所育兒院の設けあるを見る。皆これ人情孤獨を憐むより起りたる事なり近時我國にては公衆の喜

捨による慈善の諸會起り婦人にしてこれを賛けざるものは殆んど稀なるべし。されど多くは大金を棄捐し又は綿帛を寄附する等身分ある人ならではなしあたはず。さりとて此の哀れなる幼兒を奈何せん。この度同志相集り何人にも爲しうべき方法を求めて家中用に堪へざる廢物をつゝまやかに貯蓄し此れを金錢にかへ育児の資に充てんとする云々此趣意により病兒部と育兒部(保育部)に分け貧民の病兒を施療し且勞働者の妻が分娩して大患にかつた時足手まごひになる乳兒を預かり育てゝゐるのです實際に世話をする人は殆ど會名の通り婦人で女醫、藥局、看護婦等の方々がやつてをられます。病兒は外來と入院と兩方あつて聞き傳へて頼みに來るのもあり醫者や幹事の紹介で入るのもあり近來は病兒部よりも保育の方の願出多くて室を殖す必要に迫られてゐるさうです。これあるが爲に踏切りの旗ふりで妻に死なれて嬰兒を持て餘す者が職務を完全に行

へる様になり夫に別れて子ある爲に奉公も出来かねて手近な死を選ばうと云ふ矢先に安心して子を引きとられて奉公に行けた女人もあるさうです。

参觀した日は寒い曇つた日でしたが八疊敷位の暖

い室に小さい寢臺が四つ位づゝ並び清潔な寢具や毛布にくるまつてすや／＼と眠つてゐる幼兒もあり籐の寢椅子の布團の中から聲をあげてゐる口へ看護婦がさじで暖いミルクをつきこんでゐるのもあります衛生上の知識のない親達から重病に苦められて泣く子供を食べねばならぬ事に逐はれてこづき廻したり罵つたり毒々しい駄菓子等を與へられてゐる子供達がかく手當行き届いた世話をされるのは全く幸福と云ふより外はありません。文明と共にこの種の事業がもつと大規模になる事を祈ります。尙こゝの幼兒の最も多い疾患は栄養不良で泣き聲さへ立て得ぬのや消化不良や呼吸器病が多いさうです。因に弘田博士は「獨逸あたりの託児所は一都會をなす所には必ず一ヶ所ありそして副事業として牛乳の分配をしてある。託児所附の醫者が子供の年齢様子を見て牛乳のうすめ方や分量を適當にして母親に毎日與へ母親は十日に一遍位子供を見せに来てそれにより

醫者は又手加減をする事をやつてゐるが共立育兒會でもそれ迄やり度いが経費が許さないので實行出來ない」と語られました。

○電車の中で

淺草橋の停留場からどや／＼と乗り込んだ客の中、子供連れの夫婦が隣りへ來た。夫婦とも男の子を一人宛れんれにて同じ様におぶつてゐる。髪をひつつめにして、洗ひざらしの袴で見ると、暮し向の程も思はれるが、手に籠の葉のついた竹竿を持つて、それにも中の皮の様なふわ／＼したもので出来た狐の面がぶら下つてゐる。えびす様の顔もある。巾着の形も下つてゐる。何れも毒毒しい畫の具の赤や青で光つてゐる。而も狐の耳は片方なくなつてゐるが、大方子供がほしがつて食べて見たものゝ餘りのまづさに止したものだらうと思つて見た。夫の膝の新聞包でべつたら市の歸り客と見えたが、れんれこでおぶつて迄芋を洗ふ様な縁日や市の人込の中を歩いて、泣けばこづかれ、怒れば眉をひそめるやうな色づけをした駄菓子を與へられる子供が可愛想だ。親の愛は深いに違ひないが、無智なのが痛ましい。

前に腰かけてゐる中學の生徒が突然立ち上つて退いた。見るとよれ／＼の絆でんに煮しめた手拭をしめて、病後でもあらう頭髪の薄くなつた五十前後の男が、腰かけてゐる。顔はと見れば全體青ざめて何となく腫れてゐるらしい、その中隣りの人へ尋ねた事は「富川町はのりかへますか」。
無智も悲しいが貧とほこの社會では親子相續してゆくのであらう。